屈折ノ蓋 （旧タイトル：歪んだ舌）

時果行夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

屈折ノ蓋（旧タイトル：歪んだ舌）

【Nコード】

N7832X

【作者名】

時果行夜

【あらすじ】

マスタアドのボーカル・ユガを神のように敬う、弟のシズク。ユガの快楽は凶器となり、シズクの皮膚の奥に痛みを与え黒い染みを残していく。歪んだ愛の狂気の甘味は、ユガの舌に絡み付き、その先に蓄積されてく。

syrup（シズクの味覚編）からはじまる、マスタアドを核にしたモノガタリ。

それぞれの味覚はどんな味がするの？

『こんなクソみてえな世の中に生まれ堕ちたことを、誰に感謝してやろうか』

ユガの底に潜んでいるもの。ただの悪戯に過ぎないと、甘く見落としていた。

ユガの狂気は、俺と同じ血のどこに巣くっているのか。

ユガの母親か？ 俺とユガは母親が違う。

初めて会ったとき、ユガは笑った。唇の片方が上がる笑いで。

今と変わらない。強がっているわけでもなく、ユガはユガとして完成されていた。

神のようにも見えだし、亡者のようにも見えた。

俺にはユガしかいなかったし、ユガには俺しかいなかった。

それは、愛情よりも超越したものだといっても過言ではないだろう。

俺たちは拠点を変え、俺たちのバンド『マスターアド』を再始動させていた。

ユガはイラストレーター、俺はユガのデザインした物を形にする仕事を手掛けている。

マスターアドのユガは崇拜される位置にいて、教祖のように君臨しウタを歌う。

メジャーへのオファーがきてもすべて断っていた。

ユガはとにかく拘束されるのを嫌う。言い換えれば支配者でありたいのだ。

一度だってユガが弱みを見せたことなどない。いつも癖のある笑い方で君臨し続ける。

だが。

最近のユガは。

「シズク、マスタアドやめねえか？」

いきなり、だ。

「何を言っているの？」

「歌いたくねえんだよ」

黙っていると歌いだした。

「支離滅裂／順番通りに行儀良く破壊しろ

支離滅裂／なだめるように優しく犯せ

誰にも命令されやしない／俺の言葉をもって崇め」

「つとに支離滅裂だよ」

それは、ユガが作った「支離滅裂」というウタで、インディーズでは上位にランクインした。

「なあ聞いてんの？」

「聞いているよ。ウタを」

「ウタ……か。俺のウタに意味はあるのか？ 俺に意味はあるのか？」

「あるよ」

そう言ったらユガは黙った。それ以上を聞くのを止めたのか。

ユガの意味？

俺はユガの言葉に戸惑いもした。

あの一件以来、ユガは変わった。

ここにくる前、別な場所で店を構えていた。

ひとりのアルバイトの女がいたが、ユガはその女に手を出した。

初めてのことだ。

それまでのユガは、俺にしか興味がなかったのだから。

目覚め、なのかもしれない。異性への。
ユガは俺を壊すことはやめなかったが、それでも上の空のように思
う。

“ユガはドコカで別ノ女を壊シテル”

ユガには、匂いを嗅ぎ分ける能力が備わっているように思う。
人に棲む狂気という匂いを。
水飴みたいな、かつたるいもんだとユガは言う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7832x/>

屈折ノ蓋（旧タイトル：歪んだ舌）

2011年10月21日04時04分発行